

都道府県番号	8
都道府県名	茨城県

学校名及び規模

【 】

学校名	麻生町立行方小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	9	18	25	18	13	16	5	104	

研究の概要

(1) 研究主題

学ぶことの楽しさや充実感が味わえ、「確かな学力」の定着を図るための指導法の工夫
～児童一人一人に基礎・基本の定着を図る学習活動をめざして～

(2) 研究主題設定の趣旨

新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育は、子ども一人一人が経験したり、学んだりしたことを生かしながら、新しい問題の場面と進んでかかわり、自ら考えたり、判断したり、試みたり、表現したりする能力や資質を育てることが必要とされている。こうした能力や資質は、「生きる力」に密接に結び付いている。「生きる力」の知育の部分では、「自分の課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」である。
情報があふれ、めまぐるしい変化を続ける社会の中で、自分を見失わず対応していくためには、自己の生き方を考える幅広い問題解決能力と実践力が不可欠である。これらを踏まえて、学習指導の工夫・改善を考えたとき、子どもたちが自ら問いかけて、考えていく過程を通して、基礎・基本の確実な定着を図りながら、学ぶ楽しさを味わっていく授業を目指していくことが必要だと考え、この研究主題を設定した。

研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫

本研究を学校全体で学力向上に向け推進していくため、全職員による研究体制を次のように整え、授業研究部以外に環境・調査・記録部を設置した。



(2) 研究の実際

楽しさや充実感を味わえるための学習指導法
学習形態

ア ティーム・ティーチング（以下TT）を生かした指導
基礎的・基本的内容を確実に身に付け、主体的、創造的な学習を展開。
一人一人を大切にしたい

イ 少人数指導・習熟度別指導
長所を生かし、短所を補いながら一人一人に対応した指導の実践。

ウ 課題別学習
課題間の差をあまり大きくしないようにして、興味・関心に応じた課題選択を加味した内容に設定した。

エ 算数的活動
具体的な操作活動を多く取り入れ、直接経験を生かした学習を取り入れた。

評価内容・方法の工夫改善

ア 「評価規準」の作成
指導と評価の一体化をするため本校独自の単元毎の評価規準（B規準）を作成。（次頁 一部抜粋）

少人数指導・習熟度別指導の長所と短所

長所（教師側，児童側）	短所（教師側，児童側）
目が行き届く きめ細かい指導ができる（技能面） 声かけが多くできる ノート指導がしやすい 実態に応じた指導ができる たくさん声をかけてもらえる 個人的に指導してもらえる	多様な見方・考え方を指導しにくい 学び方を指導しにくい 目が行き届きすぎて手をかけすぎる 一人一人の声が聞こえず対応にあわれない 多様な見方・考え方にふれにくい 先生に依存する傾向が生まれる

6年2学期 ※単元名及び学習事項は、「たのしい算数」の教科書の配列順です。

評価規準	観 点	6 学年 単元名 10 分数のわり算				8 時間	
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	量や図形についての知識・理解	量や図形についての表現・処理	量や図形についての知識・理解
10 1	分数のわり算 分数でわる計算	<ul style="list-style-type: none"> 乗法の意味の拡張にならなっても、分数の除法についても、乗法の意味をかりり、整数の場合と同じ形式で立式できるようにしようとする。 分数でわる除法の計算のしがなを既習事項を用いて積極的に考え出そうとする。 もとのする量が分数で何倍かを求めるときに、何倍かが分数でもとにする量を求めるときに除法が用いられることを知り、分数の除法を積極的に用いようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を用いて、分数でわる計算の意味を小数の場合と統合的にとらえようとする。 立式の根拠を数直線を用いて説明する。 分数の除法の計算方法を、既習の分数や計算のしがなをもとに考え出し、説明したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 除数が分数の場合の除法の場面を立式ができる。 分数でわる除法の計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数でわることの意味がわかる。 分数でわる除法の計算原理や計算方法がわかる。 除数の大きさによる除数と商の大きさの関係がわかる。 除数(もとにする量・倍)が分数の場合の除法の意味がわかる。 		
	評価方法						
1	項目 1						

イ 「単元系統図」の作成

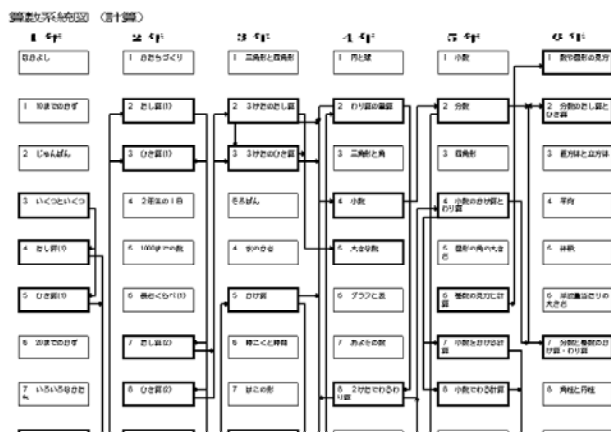
全学年を見通した算数科での各領域別の単元系統を図式化。

各学年の単元の流れを把握した。

領域別に各学年相互の関連性を把握した。

児童のつまづきを調査・確認する上で振り返りやすい。

学習計画を立てたり、既習未習を調査・把握する上で有効に活用した。(一部抜粋)



ウ 「名称、語句、公式等における学年別基礎基本事項」の一覧表の作成

表は各学年で学習する名称や語句、求積公式、図形の各部の名称、単位...など、知識・理解面での基礎・基本となるものを一覧表にした。

指導・支援の際、「は年生で学習している」という情報をつかんで指導にあたった。(一部抜粋)

学年別 算数基礎基本事項(名称、語句、公式、他)

語 句	公 式	他
0.012 (0.12の $\frac{1}{10}$) 1.342 (1.34と0.042を合わせたかき) $\frac{1}{100}$ の位=小数第二位 $\frac{1}{1000}$ の位=小数第三位		100m=0.1km 10m=0.01km 1m=0.001km

エ 「身に付けさせたい基礎・基本」の作成

目標に準じて1時間1時間で児童に身に付けさせたい内容を児童の学習活動・内容と合わせて一覧表にした。(一部抜粋)

算数科 身に付けさせたい基礎基本 (第6学年)

算数科 身に付けさせたい基礎基本 (第6学年)

単元	1 数や図形の見方	2 分数のたし算とひき算	3 立方体と立方体					
学習活動・内容	身に付けさせたい基礎・基本	学習活動・内容	身に付けさせたい基礎・基本					
1	○大きな数の乗法の積を、概算を用いて計算し、見積もる。	○結果数、乗数を四捨五入によって上から1けたの概算にして計算し、積を見積もることが出来る。	○大きな等しい分数の分母を揃え、分子どうしの積算を知り、大きな等しい分数をつくる。	○分数は、分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても大きさは変わらないことを理解し、大きな等しい分数を作ることが出来る。	○いろいろな形の面の形に着目して分類することを進めて、「立方体」「立方体」の形とそれらの体とすることを理解し、分類することができる。	○「見取り図」の用語とその意味を知る。	○正方形だけでなく囲まれた形を立方体、五角形を五角形と正方形で囲まれた形を立方体と正方形とすることを理解し、分類することができる。	○「見取り図」の用語と意味を理解することができる。
2	○大きな数の除法の商を、概算を用いて計算し、見積もる。	○結果数、除数を四捨五入によって上から1けたの	○「約分」の用語とその意味を知り、手続よく約分	○「約分」の用語とその意味を理解する。	○立方体と立方体の性質を、頂点、辺、面などの構成	○頂点(8)、辺(12)、面(6)という立方体と		

オ 処理・技能面での確実な定着化(自作ドリルの作成と繰り返し練習) 計算処理問題を中心に作成し、授業での学習内容の確認問題、あるいは復習問題、繰り返し練習問題として活用した。

ア 算数的(数学的)考えの素地を培うための「算数ランド」の設営。 学習資料(具体物、半具体物及び教材教具)の整備と活用。 授業での使用を目的に作成した半具体物等も児童の思考の連続を図った


~~~~~

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

- ・「身に付けさせたい基礎・基本」の作成。
- ・「名称、語句、公式等における学年別基礎基本」事項の一覧表の作成。
- ・「領域別単元系統図」の作成。
- ・学年の実態を考慮した「自作ドリル」の作成と繰り返し練習の実施。